

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	427020817
法人名	株式会社山本造園土木
事業所名	グループホーム茶々の里
所在地	長崎県佐世保市世知原町木浦原772番地 (電話) 0956-76-2800
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 11月 19日

【情報提供票より】 (平成20年 9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 17年 7月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要 (9月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1		要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 90 歳	最低 88 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人世知原クリニック・医療法人智松会松瀬診療所・岩谷歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

世知原の中心部より程よく上った茶畑とのどかな田園風景に心いやされる場所にある。事業所の特長を生かした立派な庭に囲まれた暖かみのある木造平屋造りのホームである。周りには茶畑、菜園やグランドゴルフもできる庭など外での楽しみも多くある。一番の特徴は地域の集会所的な役割を果たしており老人会や地域ボランティアが集まり行事が行われている。近所の方の訪問もあり地域に根付いたホームである。施設長・管理者・職員の利用者に対する介護方針は統一されており「その人らしく」を大切に、季節や日々の生活の感動を利用者と共に共有している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の改善項目は即職員のスタッフ会議で話し合われ運営推進会議でも発表され、改善シートも作成されている。運営推進会議の議事録の作成や、災害準備協力、他事業所との交流など即改善に向け実行されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員各自が作成し管理者がまとめその後職員で見直しを行い意見交換を行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。メンバーは包括センター・民生委員・老人会・区長・家族代表・施設長・管理者・職員である。案内状・議事録が資料と共にファイリングされている。会議では行事や日常報告の他に外部評価や研修内容を報告されている。また市の長寿課へ議事録を報告を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族に毎月の支払を持参して貰った時に、利用者の暮らしぶりの報告や記録等を見てもらい要望や不安なことに対処している。その他遠方の方へは電話連絡を行うなどしている。内部の苦情相談体制や外部第三者窓口等の説明も運営規定にわかりやすく記載されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは地域の集会所的な役割もあり、老人会の集まりやクリスマス会など行われている。夏祭りやバーベキューに多くの方を招いている。また日頃からホームを訪れ声かけたり野菜をいただいたり近所づきあいや病院や買い物の時も声をかけられることも多くある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は額に入れて見やすく掲げられており、内容もその人らしい暮らしを目指した家族的な理念である。この開設当初からの理念をもとに、より一層地域密着型サービスに向けて介護支援や地域との交流を話し合っており、行事や地域住民の訪問などの形で現れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意義や地域密着についてスタッフ会議でも取り上げられている。職員も理念を理解しており、「そのひとらしく」という言葉を利用者それぞれにあった介護を話し合いながら実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは地域の集会的な役割もあり、老人会の集まりやクリスマス会など行われている。夏祭りのバーベキューにも多くの参加があった。また日頃からホームを訪れ声をかけたり野菜をいただいたり近所づきあいや、病院や買い物の時も声をかけられることも多くある。今後も利用者と共に参加できることを積極的に模索している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を作成し管理者がまとめ再度全員で確認し作成されている。前回の外部評価の改善項目は即職員のスタッフ会議で話し合われ、改善シートも作成されている。運営推進会議でも発表され意見交換し、災害準備協力を得ている。		

グループホーム茶々の里

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。メンバーは包括センター・民生委員・老人会・区長・家族代表・施設長・管理者・職員である。案内状・議事録が資料と共にファイリングされている。会議では行事や日常報告の他に外部評価や研修内容を報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の長寿社会課とは事故の報告や相談などがある場合出向いている。また活動の報告（茶々だより）や運営推進会議の議事録の報告を行っている。研修や介護情報などの資料も頻繁にきている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の支払を事業所まで持って来てもらうことで、利用者の茶々だより・暮らしぶりの報告・金銭管理ほかの記録も見てもらっている。職員全員は全利用者の報告ができる。また、遠方の方へは2か月に1度発行の茶々だより・毎月生活記録・金銭出納帳のコピーや外出時や生活風景の写真等を送っている		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申立時の書類や苦情ボックスの設置がある。運営規定と重要事項説明書にはサービス内容に関する相談・苦情の項目があり、内部・外部窓口の連絡先、解決の手順が明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長・管理者は馴染みの関係の大切さを理解している。そのため職員の働きやすい環境を心がけている。離職の場合も、利用者を中心に職員の担当など段階を踏んで行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は内容によって施設長・管理者は職員の介護レベルに応じて参加職員を振り分けている。特に新人は何度か同じ研修に参加することもある。研修後は月に1度のスタッフ会議で全員で勉強会したり現場で実践しながら伝えている。分からないことは全員で解決している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへ職員と利用者が訪問し、幼稚園の演奏会や中学校の行事に参加している。職員同士利用者同士が自然に交流できる場ができ、職員は相互にサービスの質を向上させている。また佐世保市連絡協議会へ参加し、感染症や接遇マナー講座などの職員の参加がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所のパンフレットや口コミで家族や本人の連絡があり話を聞いた上で、ホームへ何回でも見学を行い本人が納得して決める。またその間に生活歴などの情報を準備して。最初は馴染めず外へ出て帰ろうとするが、家族の協力など、無理強いないでその人に合わせた細かな見守り支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや漬物・料理の味付け等利用者から教わることもある。また日常会話の中に調理法や野菜の処理の仕方など質問交えながら問いかけを行ったり、ホームで育てた野菜を見て会話をする中で、利用者の残存能力を引き出したり、場面づくりの題材を探っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の暮らしの意向の収集に常に気を配っている。夜勤時は特に利用者が自分の話や要望を多く話すため、利用者全体の希望の収集ができています。気づきがあればすぐに連絡帳や個別の生活記録へ記載し職員間で申し送り、情報提供を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	短期3ヶ月長期6ヶ月の介護計画を作成している。利用者や家族の意向と医師の診断を取り入れながら、担当者が中心にモニタリング結果をふまえながら、サービス担当者会議で介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎日のモニタリングを個人生活記録に記載し、月1回のミーティングにおいて各利用者のモニタリング報告を行い計画の見直しをしている。また医師からの指導があれば随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との絆を大切にし通院の外出協力やホームへの宿泊が可能である。地域との関わりが強く地域ボランティアの慰問を様々企画している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各協力医との関係は顔なじみであり、定期的受診の際家族や引率した職員へ様々指導してもらっている。協力医の体制はあるが、利用者のかかりつけ医の継続受診は可能であり、また緊急時の往診もお願いできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りについて個々の家族と必要な状況になった場合話がなされているが、書面等の作成はまだなされていない。	○	職員間で充分話し合い協力病院医師とも相談し、重度化や終末期に関する取り決めに明確にし書面化することを期待する。また同時に職員の学習会などの体制も期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の漏えいに関しては誓約書として書面があり職員に徹底されている。プライバシーに関しては例えばトイレ支援は見守りを中心とし各々が自力でおこない、その後職員がさりげなく声をかけ支援している。また入浴時の脱衣時にも気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・朝食時間はその人のペースに合わせておいて、生活のリズムを乱さないよう声かけはしている。日々の過ごし方もその日の体調や気分に合わせて柔軟に対応がされている。		

グループホーム茶々の里

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に全員で10種類の嚥下体操を楽しみながら行っている。利用者も職員と共に食事に関しては準備から味付けや後片付けまで積極的に手伝っている。食事中は食材の話や菜園の野菜で会話が弾んでいる。咀嚼能力やその日の体調に合わせた盛りつけがなされ、職員と一緒に楽しく取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日・時間帯は決まっているが利用者の希望やタイミングに合わせている。入浴介助は職員の男女を問わず行っているが、本人の希望で職員が代わったり入浴支援している。拒絶者へはその人にあった声かけ誘導や、夏はシャワー・冬は足浴や清拭等している。職員が揃っている夕方まで入浴も可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人なりの過ごし方の支援をしている。台所の手伝い、カレンダーの日めくり（日記を几帳面に書いていた方）野菜作り等がある。居室にいる方にも好きなテレビの番組の時声をかけたり、歌と一緒に歌ったり、風船バレー等のレクリエーションもとりにいれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物へはお気に入りのお店に度々出かけることがある。月に2回活動日を設け積極的に全員で外出している。水軍祭、おくんちや、夏は海水浴へも携帯のトイレをもって海水遊びを行うなど季節を感じてもらっている。車いす支援の方も一緒に外出する。日常的に戸外での日光浴や外気浴を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関の鍵は掛けてない。「いってらっしゃい」と声をかけたり見守りを行い利用者は落ち着いている。またホームを離れても地域の見守りもあり安全面には気をつけている。		

グループホーム茶々の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の備品の準備や地域への連絡も消防団・町役場・防災無線等あり、協力体制が整っている。年2回の消防訓練で避難経路・連絡手順・利用者の安全確保の詳細確認は行われているが、定期的な想定訓練がなされていない。	○	昼・夜間想定避難訓練の定期的な開催と継続的に全職員への火災・災害マニュアルの周知を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量は詳細にチェックし記録してある。栄養士はいないものの栄養のバランスは気をつけている。病気の方へは医師と献立や食事の量を相談し、器のサイズで見た目の量がかわらないような気配りをしたり、咀嚼能力を落とさないよう最小限の刻み・ほぐしで支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は掃除が行き届いている。トイレは使用後さりげなくチェックされている。リビングに面している中庭から優しく光が入り季節感が感じられる。ホーム内の声やテレビの音、生活音も慌ただしくなく穏やかである。オープンなリビングにはソファや畳の間、ダイニングテーブルと一緒にいながらも、各々自由にできるスペースが保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には名前と写真が貼られており間違えず入ることができる。本人が使い慣れた物を持ち込まれて、よく整理整頓がされている。掃除は基本的には当番の職員が行うが、できる方には自身で行ってもらい職員がさりげなく確認している。また室温・湿度調節も職員が細かに確認している。		

※  は、重点項目。